

## 新教皇選出にあたって

六百年ぶりという生前辞任を表明された前教皇ベネディクト十六世の後を継ぐべく、「信仰年」ただ中の3月13日（ローマ時間）、ブエノスアイレスの大司教ホルヘ・マリオ・ベルゴリオ枢機卿（Card. Jorge Mario BERGOGLIO, S.J.）が第266代教皇に選ばれ、フランシスコと名乗られました。この新しい教皇様と共に、カトリック教会がまた新たな一步を踏み出すことになり、大変嬉しく、また喜ばしく思います。

カトリック教会の内外にはさまざまな問題が横たわっていますが、教会自身がまず改心し、自らを刷新する必要があります。そして、世界各地で自然災害、人為的災厄、差別、武力紛争などに苦しむ人々は数えきれないほどおられます。一方、わたしたちの世界には問題しかないというわけではありません。自然環境に恵まれているだけでなく、より高い理想をめざし、ほかの人々の幸福を追求し、常に平和を実現しようと奮闘している人々も決して少なくありません。

いずれにしましても、新教皇の両肩には、全世界のカトリック信者の最高指導者、またカトリック教会の代表者としての大きな責任が重くのしかかるとおもいます。しかし教皇としての任務を遂行するためには、教皇自身の単なる人間的な能力や知識や経験では不十分であります。常に共におられて知恵を照らし、意志を強めてくださるキリストの恵みの力によってはじめて大任を果たすことができるのです。また、教皇庁だけでなく、世界中の枢機卿、司教、司祭はもちろん、修道者や信徒も問題を共有し、解決に向けてそれぞれが、また協働して共に取り組んでいく必要があります。教皇様には、第二バチカン公会議が示した針路を先頭に立って力強く進んでくださることを期待しています。

新教皇のご健勝とご活躍を祈りつつ、新教皇を中心にして、長崎のカトリック信者も、全世界の兄弟姉妹たちと共に、すべての人々にキリストの「よい知らせ」を告げ知らせ、すべての人々の真の平和と幸福のために少しでも奉仕できるよう努める決意を新たにしたいと思います。

2013年3月14日

カトリック長崎大司教 高見 三明

\* 現在、新教皇名は多くの報道で「フランシスコ1世」と表記されていますが、日本のカトリック教会では今後、バチカンに合わせて教皇「フランシスコ」と表記します。